くすりのしおり

注射剤

2023年01月作成

|  |  |
| --- | --- |
| 薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。 | |
| **製品名:マブキャンパス点滴静注30mg**  **主成分:**アレムツズマブ（遺伝子組換え）(Alemtuzumab (genetical recombination))  **剤形:**注射剤  **シート記載など:** |  |
| **この薬の作用と効果について**  ヒト化抗CD52モノクローナル抗体と呼ばれる注射薬で、細胞表面に存在する特異的な抗原（CD52というタンパク質）に結合し、がん細胞の増殖を抑えます。  通常、再発または難治性の慢性リンパ性白血病の治療、同種造血幹細胞移植の前治療に用いられます。 | |
| **次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師や薬剤師に伝えてください。**  ・以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。感染症にかかっている人。  ・妊娠中、妊娠している可能性がある、または授乳中。  ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。 | |
| **用法・用量（この薬の使い方）**  ・**あなたの用法・用量は((**:医療担当者記入**))**  ・再発または難治性の慢性リンパ性白血病：通常、1日1回静脈内に点滴で注射します。最大12週間まで注射しますが、症状を見ながら使用期間を決めていきます。  同種造血幹細胞移植の前治療：通常、1日に1回、6日間静脈内に点滴で注射します。  ・インフュージョンリアクション（薬剤注入に伴う反応）を軽減させるために、この薬を注射する前に抗ヒスタミン剤および解熱鎮痛剤、あるいはこれらに加え副腎皮質ステロイド剤が使われることがあります。 | |
| **生活上の注意**  ・血球減少（血小板減少や好中球減少など）や感染症があらわれることがありますので、定期的に臨床検査（血液検査など）が行われます。医師の指示を守って検査を受けてください。  ・妊娠する可能性のある女性やパートナーが妊娠する可能性がある男性は、この薬を使用している間および使用後から一定期間は避妊してください。  ・錯乱や傾眠（眠気でぼんやりするなど）があらわれることがありますので、自動車の運転など危険を伴う機械を操作する際には十分注意してください。 | |
| **この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）**  主な副作用として、食欲減退、頭痛、嘔吐、吐き気、下痢、かゆみ、じんましん、さむけ、発熱、疲れなどが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。  **まれに下記のような症状があらわれ、[　]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。**  **このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。**  ・発熱、喉の痛み、めまい [血球減少]  ・呼吸困難、意識の低下、発熱 [インフュージョンリアクション]  ・体がだるい、発熱、さむけ [感染症]  ・白目が黄色くなる、あおあざができる、体がだるい [免疫障害]  ・意識の低下、尿量が減る、息苦しい [腫瘍崩壊症候群]  **以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。** | |
| **保管方法 その他** | |
| **医療担当者記入欄** 　　　　　　　　年　　　月　　　日 | |

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、「患者向医薬品ガイド」、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。